



## 2022年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

東

上場会社名 株式会社PKSHA Technology 上場取引所  
 コード番号 3993 URL http://pkshatech.com/ja  
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)上野山 勝也  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 経営管理本部長 (氏名)中田 光哉 (TEL)03-6801-6718  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年9月期第1四半期の連結業績(2021年10月1日~2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	2,657	24.7	707	83.0	389	49.9	390	64.9	180	50.9
2021年9月期第1四半期	2,130	14.8	386	88.1	259	141.5	236	106.0	119	73.9

(注) 包括利益 2022年9月期第1四半期 168百万円 ( 51.4%) 2021年9月期第1四半期 111百万円 ( △91.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	5.93	5.74
2021年9月期第1四半期	3.94	3.79

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第1四半期	34,923	28,774	81.7
2021年9月期	35,277	28,605	80.4

(参考) 自己資本 2022年9月期第1四半期 28,519百万円 2021年9月期 28,363百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年9月期	—	—	—	—	—
2022年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日~2022年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	37.5	2,360	59.0	1,000	40.2	940	47.9	260	76.2	8.52

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年9月期1Q	31,040,200株	2021年9月期	30,966,600株
2022年9月期1Q	502,076株	2021年9月期	502,049株
2022年9月期1Q	30,511,188株	2021年9月期1Q	30,386,451株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(会計方針の変更)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「未来のソフトウェアを形にする」というミッションのもと、自然言語処理、画像認識、機械学習/深層学習技術を用いたアルゴリズムの研究開発、ソリューション提供、プロダクトの拡販による社会実装を進めております。

AI Research & Solution事業では、アルゴリズム・知能化技術の事業化を行っており、パートナー企業のニーズに合わせて共同研究開発からソリューションの提供までを一気通貫で実施しております。また、実オペレーションを通じた製品/サービス開発の一環で、IoT機器からリアル空間のデータをクラウド上に収集し顧客への価値提供を実現するサービスの開発を、駐車場機器の製造販売事業を通じて行っております。

AI SaaS事業では、AI Research & Solution事業におけるアルゴリズムの開発成果をもとに、汎用的なニーズに対応するプロダクトを販売しております。AI SaaSプロダクトは「顧客接点」・「社内業務」領域で利用されており、人の業務を効率化し能力を拡張していく形で、ビジネス支援や企業の課題解決を実現しております。

当第1四半期連結累計期間は、AI SaaS領域における顧客の拡大と機能拡充を目指す成長戦略のもと、優秀な人材の採用を積極的に進めるとともに、AI SaaS間のシナジー創出に主眼をおいた研究開発の加速へとリソースを注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,657,197千円(前年同四半期比24.7%増)となりました。これは主に、AI SaaS事業において各種プロダクトの販売が拡大したこと、並びに前連結会計年度中に取得した株式会社PRAZNA・株式会社アシリレラの売上が連結業績に寄与したことによるものです。

営業利益は389,265千円(前年同四半期比49.9%増)、経常利益は390,151千円(前年同四半期比64.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は180,817千円(前年同四半期比50.9%増)となりました。これは主に、収益性の高いAI SaaS事業の売上高構成比が増加したことによるものです。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

#### (AI Research & Solution事業)

AI Research & Solution事業につきましては、パートナー企業からのニーズを受けた研究開発やソリューション案件の獲得は堅調に推移したものの、実オペレーションである駐車場機器の販売事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による顧客の新規駐車場開設への投資意欲低迷が続き、機器導入ペースが鈍化いたしました。

この結果、売上高は1,531,435千円(前年同四半期比20.4%減)、セグメント利益は139,019千円(前年同四半期比49.0%減)となりました。

#### (AI SaaS事業)

AI SaaS事業につきましては、AI SaaSの導入による業務の高度化・自動化を進めるニーズが拡大している環境の中で、自動応答エンジンを中心にAI SaaSの新規受注とライセンスの積み上げを進めてまいりました。一方で、今後の成長に向けて人件費を中心に積極的な先行投資を実施しております。

この結果、売上高は1,127,262千円(前年同四半期比434.2%増)、セグメント利益は364,977千円(前年同四半期比338.8%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は34,923,172千円となり、前連結会計年度末に比べ354,285千円減少いたしました。流動資産は15,588,369千円(前連結会計年度末比46,226千円減)となりました。主な減少要因は、受取手形、売掛金及び契約資産(前連結会計年度末は「受取手形及び売掛金」で表示)が102,834千円、その他が1,140,111千円増加したものの、現金及び預金が1,314,862千円減少したことによるものであります。また、固定資産は19,317,868千円(前連結会計年度末比301,539千円減)となりました。主な減少要因は、のれんが189,159千円減少したことによるものであります。

### (負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は6,149,153千円となり、前連結会計年度末に比べ522,641千円減少いたしました。主な減少要因は、未払法人税等が394,004千円減少したことによるものであります。

### (純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は28,774,018千円となり、前連結会計年度末に比べ168,355千円増加いたしました。主な増加要因は、利益剰余金が170,115千円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました「2021年9月期 決算短信」に記載した内容から変更はございません。経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,804,730	11,489,867
受取手形及び売掛金	1,301,610	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,404,445
原材料及び貯蔵品	404,549	430,766
その他	1,129,048	2,269,159
貸倒引当金	△5,342	△5,868
流動資産合計	15,634,595	15,588,369
固定資産		
有形固定資産	1,353,528	1,343,973
無形固定資産		
のれん	9,418,159	9,228,999
その他	900,243	897,669
無形固定資産合計	10,318,402	10,126,669
投資その他の資産		
投資有価証券	5,489,867	5,442,498
繰延税金資産	2,285,327	2,202,995
その他	172,281	201,730
投資その他の資産合計	7,947,476	7,847,225
固定資産合計	19,619,407	19,317,868
繰延資産	23,454	16,933
資産合計	35,277,457	34,923,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	353,231	353,532
1年内返済予定の長期借入金	661,690	701,690
未払法人税等	474,792	80,787
契約負債	—	213,969
賞与引当金	40,091	18,284
製品保証引当金	3,669	3,391
その他	896,197	876,675
流動負債合計	2,429,671	2,248,330
固定負債		
長期借入金	3,769,490	3,488,970
繰延税金負債	380,387	320,289
その他	92,245	91,564
固定負債合計	4,242,123	3,900,823
負債合計	6,671,795	6,149,153
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	38,945	44,489
資本剰余金	25,137,613	25,143,157
利益剰余金	3,438,880	3,608,995
自己株式	△1,197,172	△1,197,247
株主資本合計	27,418,266	27,599,395
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	944,871	920,010
その他の包括利益累計額合計	944,871	920,010
新株予約権	1,681	1,559
非支配株主持分	240,842	253,053
純資産合計	28,605,662	28,774,018
負債純資産合計	35,277,457	34,923,172

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	2,130,510	2,657,197
売上原価	1,279,997	1,346,591
売上総利益	850,512	1,310,606
販売費及び一般管理費	590,813	921,341
営業利益	259,699	389,265
営業外収益		
受取配当金	—	31,618
受取家賃	2,841	2,031
その他	971	1,898
営業外収益合計	3,812	35,548
営業外費用		
支払利息	5,220	11,507
株式交付費償却	6,520	6,520
持分法による投資損失	10,666	9,566
その他	4,542	7,067
営業外費用合計	26,949	34,662
経常利益	236,562	390,151
特別損失		
固定資産除却損	4,423	—
特別損失合計	4,423	—
税金等調整前四半期純利益	232,138	390,151
法人税、住民税及び事業税	82,965	152,845
法人税等調整額	29,561	44,278
法人税等合計	112,526	197,123
四半期純利益	119,612	193,027
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△208	12,210
親会社株主に帰属する四半期純利益	119,821	180,817

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	119,612	193,027
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,538	△24,861
その他の包括利益合計	△8,538	△24,861
四半期包括利益	111,073	168,165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111,282	155,955
非支配株主に係る四半期包括利益	△208	12,210

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

AI SaaS事業の初期設定に係る一部の収益について、従来は基本サービス契約開始時に一括で収益を認識する方法としておりましたが、契約期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,848千円、売上原価は4,982千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3,866千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は10,702千円減少しております。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しており、また、流動負債の「その他」に含めて表示していた前受金は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (セグメント情報等)

## 1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	AI Research & Solution	AI SaaS	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,923,103	207,407	2,130,510	—	2,130,510
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,600	3,600	△3,600	—
計	1,923,103	211,007	2,134,110	△3,600	2,130,510
セグメント利益	272,809	83,182	355,992	△96,293	259,699

(注) セグメント利益の調整額△96,293千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の一般管理費であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	AI Research & Solution	AI SaaS	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,531,435	1,125,762	2,657,197	—	2,657,197
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,500	1,500	△1,500	—
計	1,531,435	1,127,262	2,658,697	△1,500	2,657,197
セグメント利益	139,019	364,977	503,997	△114,732	389,265

(注) セグメント利益の調整額△114,732千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、アルゴリズム/AIのマネタイズが進み、ストック収益が主体であるSaaS型ビジネスの重要性が増したため業績管理区分を変更いたしました。これに伴い報告セグメントを従来の「Mobility & MaaS事業」、「Cloud Intelligence事業」から「AI Research & Solution事業」、「AI SaaS事業」へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。当該変更により、従来の方法に比べて当第1四半期連結累計期間の「AI SaaS」の売上高は8,848千円減少し、セグメント利益は3,866千円減少しております。